

一般社団法人 日本生態学会

2025 年度 第 2 回通常理事会

1. 日時：2025 年 7 月 18 日（金）14:00～18:00
2. 場所：東京大学農学部 1 号館 1 階 1 0 0 番会議室およびオンライン（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（19 名・定足数 10 名以上）
（理事）北島薫、日浦勉、内海俊介、半場祐子、山尾僚、久米篤、
木村恵、村岡裕由、相場慎一郎、石濱史子、森章、小林真、
工藤岳、土居秀幸、西廣淳、中野伸一、吉田丈人
 - ・監事：黒川紘子、立田晴記
 - ・オブザーバー：富松裕、永光輝義、大澤剛士、和田直也
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 17 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い北島薫会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、北島薫会長、黒川紘子監事、立田晴記監事、議事録作成者は内海俊介専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて内海専務理事より科研費採択・日本学術振興会賞推薦・生態学琵琶湖賞実施など庶務 13 件、ESJ72 関連の支払い等会計 11 件の報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて富松編集長より 2025 年上半期編集状況、2024 Journal metrics、ER シンポ出版状況、特集企画、受賞論文についての報告があった。
 - ・掲載数は昨年並みを維持、JIF や Cite score は低下。投稿受付システムが Wiley 社の Research Exchange (ReX) に移行することが予定されている。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・資料 3 に基づいて永光編集長より 75 巻（2025）から J-Stage 早期公開を開始し、1 号を 7 月に国際文献社から発行することが報告された。
 - ・次期編集委員会（2026 年 1 月～）より、これまでの年 2 回発行から年 1 回 9 月発刊に変更することを 12 月の理事会で審議事項とする提案があった。

理事からは、基本的に賛成であり大きな問題はない、との意見が出された一方、特集号が冊子体として掲載される場合、複数年度に渡ってしまう可能性も指摘された。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・資料 4 に基づいて大澤編集長より学会サイトに「和文誌発行遅延のお詫び」を掲載したこと、30 巻（2025）も遅れているが発送準備が進んでいること、2025 年度の投稿数は例年並みになっていることが報告された。

5. 出版状況報告

- ・資料 5 に基づいて久米理事より研究成果公開促進費、Society Publishers' Coalition への加入、編集システムの ReX への移行準備、PSB 誌の Gold-OA 誌移行、Continuous Publication への変更、海外学術集会への出展状況、2024 Journal Impact Factor の状況について報告があった。
- ・アメリカ等の政治状況の変化などを考えると、今後学会が出版した論文や研究データの保管を学会としても行った方がよいとの説明があり、情報交流専門委員会とも相談し保管方法を決めて 12 月の理事会に諮りたいとの提案があった。また、AI をどこまで取り入れるかも、方針を決める必要があるとの意見があった。

6. 大会報告（ESJ72 報告、ESJ73・74 準備状況）

- ・資料 6 に基づいて内海専務理事より ESJ72（札幌）について、過去の大会とほぼ同数の参加者数で発表数も多く 4 日開催も好評であったこと、オンサイト中心のハイブリッド開催で会場使用料や機器使用料が嵩み参加費を高くしたが収支が赤字であったことが報告された。
- ・資料 6 に基づいて土居大会実行委員長より ESJ73（京都）について、大会 Web サイト公開、公募セッション・ER シンポ公募開始、一人一講演原則、EPA とバイリンガル表記の廃止、リアルタイム配信は行わずシンポジウムと受賞講演のオンデマンド配信、フォーラム提案の変更、今後のスケジュールについて報告があった。
- ・資料 6 に基づいて和田直也氏より中部地区で実施する ESJ74 を富山にて開催準備を進めていることが報告された。

7. 大会運営改革 TF 報告

- ・資料 7 に基づいて吉田理事より大会の中長期的に解決すべき問題点の提起と特に学会事務局体制強化・ポスター賞審査について検討しているとの

報告があった。

8. 各種委員会報告

<情報交流支援専門委員会>

- ・資料 8 に基づいて村岡理事よりウェブサーバー保守業者の事業方針変更に伴い、学会ウェブサーバー保守担当業者を 2026 年より変更する必要があるとの報告があった。

<キャリア支援専門委員会>

- ・資料 8 に基づいて木村理事より女子中高生夏の学校への参加、ESJ73（京都）での育児サポート、ダイバーシティに関する野外調査マニュアルの作成、大会参加属性アンケート解析についての報告があった。

9. EAFES 報告

- ・資料 9 に基づいて吉田理事より 7 月 19–22 日開催（東京大学 弥生キャンパス）し、454 名の参加予定で中国・韓国・その他の国からも多くの申し込みがあったとの報告があった。また、中国からの参加者のためのビザ申請書類作成費用の負担を今後どうするかが課題（費用一人 15,000 円、現在は開催地の大会予算で負担している）との意見があった。
- ・今回の EAFES ウェブサイトは学会サーバーに移行して残す予定。

10. 生態学琵琶湖賞報告

- ・資料 10 に基づいて中野理事より今回土居秀幸氏が受賞し、6/28 滋賀県立琵琶湖博物館にて滋賀県知事参加のもと授賞式・受賞講演が実施されたこと、次回の公募では海外からの応募者を増やしていく工夫が必要なが報告された。
- ・海外からの応募については早い時期（4 月）から宣伝を行う予定。また、クラウドファンディングなどで資金を確保することが必要なのではないかとの意見が出された。

11. 会長・代議員選挙について

- ・資料 11 に基づいて内海専務理事より今年全国選挙が実施されること、前回の選挙で 50 音順の名簿記載を変更してほしいとの意見があったため、今年実施の選挙では、被選挙名簿を 50 音順とは逆に、ウェブ上ではランダム表示を導入するとの報告があった。

12. 国際化推進広報懇談会の発足について

- ・小林理事より国際化推進広報懇談会を実施し、新しい Web ページを制作会社に外注しビジュアル面で工夫をすること、12 月の理事会で承認を得て 2026 年 3 月の運用開始を目指すこと、学会大会の国際化に関しては現在の世界情勢から、日本は相対的に海外から来てもらいやすい国になっているので、よい企画をたてて国際的なオンラインの交流を促進したいことが報告された。

審議事項

第 1 号議案 ESJ73 について（大会参加費）

- ・資料 6 に基づいて土居大会実行委員長より説明があり大会参加費を ESJ72（札幌）と同額にすることが全会一致で承認された。

第 2 号議案 ESJ74 について（大会会場・日程）

- ・資料 6 に基づいて和田直也氏より説明があり、ESJ74 を 2027 年 3 月 18 日～21 日の 4 日間、富山国際会議場および富山県民会館で開催することが全会一致で承認された。

第 3 号議案 委員の承認について

- ・資料 6 に基づいて土居実行委員長より大会企画委員候補者の提案があり、全会一致で承認された。
- ・資料 10 に基づいて中野理事より琵琶湖賞運営委員候補者の提案があり、全会一致で承認された。
- ・資料 11 に基づいて内海専務理事より選挙管理委員候補者の提案があり、全会一致で承認された。

第 4 号議案 旅費規則改訂について

- ・資料 12 に基づいて内海専務理事より説明および提案があり、宿泊費について 1 泊 15,000 円を上限とした実費とするとの規則改訂が全会一致で承認された。

第 5 号議案 Ecological Research 論文賞細則改訂について

- ・資料 2 に基づいて富松 ER 編集長より細則改訂の提案があり、一部記載を修正した上で審議し、全会一致で承認された。

第 6 号議案 生態学琵琶湖賞実施細則変更について

- ・資料 10 に基づいて中野理事より受賞候補者の決定事項の文言改訂の提案が

あり、全会一致で承認された。

第7号議案 自然保護専門委員会からの審議事項

- ・資料13に基づいて「宇久島北部及び南部の草原・湿地環境の保全を求める要望書」について和田自然保護専門副委員長から説明があり、九州地区会長と自然保護専門委員長連名で提出することが賛成15名、反対0名で承認された。

第8号議案 新規職員の雇用について

- ・資料7に基づいて北島会長より負担が非常に大きくなっている大会業務や広報対応のため事務局の体制を強化し1名増員したいとの提案があり全会一致で承認された。

閉会：以上の議事を終え、18時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2025年7月18日

会 長 : 北島 薫 ⑩

監 事 : 黒川 紘子 ⑩

立田 晴記 ⑩